

桐生市長 亀 山 豊 文 様

みどり市長 石 原 条

桐生市・みどり市の合併に向けた任意合併協議会設置申し入れに対する回答について

日頃より、みどり市行政運営に対し、ご理解ご協力を賜り深く御礼申し上げます。

さて、貴市より申し入れをいただいております任意合併協議会の設置につきまして、次のとおりご回答申し上げます。

多様化・広域化する行政課題に的確に対応することの重要性を認識し、両市民間における一体感の醸成や市民サービスの向上、効率的な行政運営等図る観点から「桐生・みどり連携推進市長会議」を設置し、様々な連携・交流事業にも取り組んできました。更に、両市は古くから桐生広域圏を形成し、ゴミ処理や斎場、病院や消防運営等市民生活に密着した事業を共同で実施し、現在も受委託による良好な共同事業を展開しています。

この度の「桐生・みどり新市建設研究会」は、両市の将来像を探求する組織として様々な調整事項を調査研究しました。この研究成果自体が、両市の将来を展望する上で大変貴重な成果であると考えています。

この研究成果を受けて、みどり市では市内関係 32 団体の代表者や市議会議員を対象に説明会を実施し、意見を聴取しましたが、賛成は 4 割、反対は 6 割という結果でした。特に、反対 6 割は予想外の結果でしたが、賛成・反対の意見の差こそあれ、まずは「みどり市としての一体感の醸成」を訴える意見が多く、合併時期の問題が大きく影響していると考えられます。

現在、桐生市との連携事業の一定の成果として、みどり市民が日常生活に不便を感じていない現状がくみ取り取れますが、将来に向け、人口減少など両市を取り巻く状況を考慮した場合、「合併」という期待感も伺える状況にあります。

また、平成の大合併が一段落した現在、国の財政支援等の大きなメリットも見込めない中で、今後の市町村合併は、住民の意思が十分に尊重されるべきとの意見も多く、明治・昭和の行政主導による市町村合併との違いも感じられたところでもあります。

このような状況の中で合併に向けた一步を踏み出すことは、民意を尊重したとはいえないものがあり、強引な判断は、結果として地域内での摩擦や対立等に繋がる懸念があります。現状、桐生市との合併に対するみどり市民の思いを一言で申し上げれば「時期尚早」という言葉を選択せざるを得ず、両市がより連携を深めながら機が熟するのを待つ必要があると考えます。

結果として、みどり市民の意向や市議会の状況、合併の必要性等さまざまな角度から熟慮に熟慮を重ねましたが、私が責任を負える期間に合併に向けた環境を醸成するのは大変難しい状況で、加えて、現時点での住民発議の動きはなく、みどり市議会の見解としても慎重な姿勢であり、現時点での任意合併協議会の設置については見送らせていただきます。

みどり市といたしましては、桐生・みどり新市建設研究会の研究成果にもあるとおり、今後も、両市の緊密な地域間連携を通じて、市民の声としての合併の機運が高まることが肝要と考えますので、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。